

a 学校教育目標	故郷を愛し、故郷のために尽くし、 自ら伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・きまりを尊重し、自他を大切にしながら健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域に尽くす児童を育てる学校
----------	------------------------------------	----------------------	--

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成	n 達成					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる	児童一人一人に合った、個別最適な学びを推進する	1 児童一人一人の実態を把握し、児童に自己選択、自己決定させながら、見通しをもって学習できる授業を行う。 2 ICT機器等を効果的に活用し、学びに組み込む。	・児童学習アンケートにおける児童の自己評価	肯定的評価80%以上	100%		125%	A	○「見通しをもって学習することができていますか」というアンケートに対して89.5%が肯定的評価だった。一人一人の実態を把握し、児童に合った授業づくりを意識して行ったり管理職と連携して個別指導を行ったりしている。 ○「学習にICT機器を活用していますか」というアンケートに対して89.5%が肯定的評価でほとんどの児童が学習にICTを活用することができている。	○めあての共有を必ず行い、見通しをもって学習を進めることができるようにする。また、引き続き管理職と連携し、個に応じた指導を行っていく。 ○ICT機器等を、学習の中で児童が選択し、活用することができるようにする。	○			・先生方が子どもたち(児童)をよく見ているなど感じました。(川原) ・児童の理解度、習熟度に対応した授業を行っており、つまづきのある児童への個別指導もできている。(三満) ・児童の個性にに合わせて、学習のフォローができています。(中尾)
		「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を感じることのできる授業を行い、基礎学力を定着させる	1 教材研究を綿密に行い、児童実態に応じた教材の開発や発問の工夫を行う。 2 各児童に合った学習内容や方法を工夫するなど、授業改善を行う。	・単元末テストにおいて、期待値以上の得点をとった児童の割合	達成児童80%以上	72%		90%	B	○単元末テストで期待値以上の得点をとった割合は72%だった。 ○児童実態に応じた手立てを個別に考えて授業づくりを行ったり、全校ドリルタイムを実施し、学力補充を行ったりしているが基礎学力の定着に課題が見られる。	○担任間で授業参観を行い、学習意欲を高める手立て等について、授業改善を行っていく。 ○引き続き全校ドリルタイムを実施し、基礎学力の定着を図る。 ○授業の中で児童の頑張りやよかった発言を振り返りで共有し、意欲につなげていく。	○			
豊かな心と健やかな体の育成	自分たちのきまりを尊重し、他者とのかわりを通して自己肯定感と連帯感を高める	他者の良さや頑張りに気づき、お互いを尊重する雰囲気醸成する	1 児童主体による、島民や外部団体との交流活動等を計画的に実施する。 2 定期的に、お互いの良さや頑張りメッセージとして「見える化」し、認め合う活動を行う。	・他者の良さや頑張りを月に1つ以上見つけ紹介した児童の割合	達成児童80%	96%		120%	A	○行事後の全校集会等において、自分たちの行動を振り返り、お互いの良さを共有する活動を行った。 ○高学年が中心となっていく、友達の良いところを今後行っていく予定である。	○高学年を中心に、児童主体の活動を計画、実施、評価させることで、お互いの努力や良さを認め、自己肯定感を高めていくようにする。	○			・児童の個性を大事にしている。そして思いやることを知っていると思います。(川原) ・児童一人ひとりが互いを気づかう姿勢が見られ、心地よい学校生活空間を自ら創っている様子を感じ取れる。(三満) ・地域の様々な年齢層の方との交流や海外の方との交流を通して、社会性が身に付き、各児童の人間性の成長につながっていると思います。(中
		自分の目標に向けて、努力し続ける児童を育成する	1 自分の良さや興味・関心をもとに、自分の力を伸ばし、みんなのためになる活動を選択・決定させる。 2 定期的に、目標と取組状況について児童と話し合い、目標達成に向けて児童に見通しを持たせる。	1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	96%		120%	A	○各学期ごとに目標を設定し、学期末等に自己評価や他者評価をしながらフィードバックしたことで、児童は目標達成に向けて主体的に行動した。特に中・高学年の低学年への関わりが随所に見られている。 ○児童一人一人の伸びを教職員間で共有を行うことができた。	○目標に対しての取組状況を振り返らせることで、自己の努力や成長に気付かせたり、自己評価力を育成したりする。 ○巡回指導やSC等を活用し、児童への指導、支援を継続的に行うことで、児童の自己変容を図っていく。	○			
信頼される学校	佐木島の学校として島民から必要とされる存在となるとともに、特認校として市民の期待に応えることができる存在となる	本校に対する島民等の関心の持続・向上	1 島内三地区に定期的に出向き、島民との交流活動を行う。 2 児童のメッセージ、学校生活の様子等を定期的に発信する。	・学校教育活動への満足度(保護者や町内会役員、学校関係者評価委員等へのアンケート)	肯定的評価90%以上	100%		111%	A	○島民の皆様との交流を行えている。また子育てサロンも数回開催で行う予定。11月以降、三地区に太鼓の披露に行く予定。 ○毎月、学校の様子を学校だよりと双鷺州で島民の皆様へ回覧してお知らせしたり、港やJAなど人の集まる場所に掲示したりすることができた。	○町内の各団体と連携を取りながら、島民と児童が交流する場を設定していく。 ○島内放送や回覧を利用しながら学校の情報を発信していく。	○			・島内を行き来しているのを見かけます。子どもの声は良いですね。(川原) ・島内新聞等を通じて、児童の様子を発信し、学校の取り組みを理解、支援してもらおうとする姿勢であり、着実に成果があがっている。(三満) ・今後も積極的に発信を続けていってほしいです。(中尾)
		働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を構築する	1 行事等の内容を精選し、効率的な業務を推進する。 2 学校準衛生委員会等で各自の勤務時間外在校時間を確認し、業務の見直しやサポート体制を構築する。	・学校全体の勤務時間外在校時間平均値	・勤務時間外在校時間を、月45時間以下。	100%		100%	A	○勤務時間外在校時間が、45時間を超えなかった割合は100%であった。今後も行事等の内容を精選しながら業務改善を進めていく。 ○月に1度の準衛生委員会で勤務時間や業務負担のある教職員の心身の状態を確認しながらフォローし合える話し合いが行えた。	○ICTを活用した業務効率化をさらに推進する。	○			

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。